

■桂ゆき 洋画家。日本における前衛女性画家の先駆者であり、第一人者として前衛美術の基礎を築いた。

かつらゆき
大正政変・・1913＝ 東京市本郷区千駄木町で、下関出身の冶金学者で東京帝国大学教授の桂弁三の五女に生まれる。本名は桂雪子(かつらゆきこ)。母は敏子。生家は九代目市川團十郎と五代目尾上菊五郎が共同で別荘として茶会などを催していた家であり、売家となったものを父が購入したという。

大暴落・・・1920＝ 7歳：文京区立誠之小学校に入学。
原敬首相暗殺1921＝ 8歳：
水平社結成・1922＝ 9歳：

__油彩画を学びたかったが、両親に許されず、

円本時代始・1926＝13歳：東京府立第五高等女学校(現・東京都立富士高校)に入学。__両親の勧めで、池上秀敏に日本画を学ぶ。

世界恐慌・・1929＝16歳：軽い結核にかかり、逗子と鎌倉で療養する間、東京帝国大学美学美術史料科に在学していた__後の洋画家長谷川三郎に出会う。三浦海岸で見つけた動物の頭蓋骨を東京に持ち帰り、自身初の「オブジェ」を製作する。

満州事変・・1931＝18歳：高等女学校を卒業。__父の縁故により中村研一に師事し、中村の紹介で岡田三郎助にも師事して、本格的に油絵を始めるが、当時は職業についている女性は少なく、画家を職業としたいという気持ちはなかった。

国際連盟脱退1933＝20歳：*中村の勧めで第20回光風会展に3作品を出品し入選。古賀春江、東郷青児らが主宰する駿河台の{アヴァンギャルド洋画研究所}にも通いはじめ、帰国したばかりの藤田嗣治に指導を受ける。将来性を見抜いた藤田は、銀座の日動画廊で個展を開催する便宜を図り、フランス留学の可能性をゆきの両親に進言している。

芥川直木賞始1935＝22歳：__海老原喜之助の勧めにより、銀座の近代画廊で{桂ゆき子コラージュ個展}を開催するが、自身の制作技法がコラージュと呼ばれる技法であることを知らず、屋根瓦やコルク屑によって、“テクスチャー”“構成”などの新しい出会いを経験し、先端的なコラージュの手法を、シュルレアリスムから距離をおきながら独自に展開、生活用具や動物など実在と抽象的な形を混在させた独自の表現を探求してゆく。

日中戦争始・1937＝24歳：
健保+総動員 1938＝25歳：姉とともに中国・北京を旅行。__藤田嗣治の勧めで、銀座の日動画廊で個展を開催し、二科会の前衛画家による研究団体{九室会}の創立に参加した。峰岸義一、吉原治良、山本敬輔、山口長男、斎藤義重ら29人が創立会員で、東郷青児と藤田嗣治が顧問になった。藤田嗣治に勧められた留学の機会を自ら断っている。

第二次大戦始1939＝26歳：__二科展で特待となり、
大政翼賛会・1940＝27歳：{紀元2600年奉祝美術展}にも出品している。__二科展の会友となった。

日米開戦・・1941＝28歳：
創価学会検挙1943＝30歳：日動画廊で二度目の個展を、大阪・青樹社で個展を開催したほか、長谷川春子の呼びかけに応じて女流美術家奉公隊に参加。満州を旅行して鞍山市でも小規模な作品展を開催した。

年金+総武装 1944＝31歳：銀座の美徳堂で近代油絵展を、大阪の阪急百貨店で井上長三郎・伊藤九三郎・山本敬輔と近作展を開催。

敗戦・・・1945＝32歳：__コラージュによる作品制作は材料不足により戦時中は中断したもの、戦後に入っても続けられる。

新憲法公布・1946＝33歳：三岸節子を中心に、女流画家協会を創設し、
新憲法施行・1947＝34歳：日本アヴァンギャルド美術家クラブの結成にも参加して、幹事のひとりとなる。岡本太郎の誘いで{夜の会}に出席、花田清輝と出会う、「さちゅりこん」の表紙のほか、花田の著作の表紙や挿絵を描いてゆく。

三大事件・・1949＝36歳：第3回女流画家協会展では協会賞を受賞。
朝鮮戦争始・1950＝37歳：*第35回二科展に「困った」「飛ぶ」を出品、会員に推挙されると、渡仏。足かけ六年、ヨーロッパ、アメリカに滞在しながら、二科展の審査員もつとめた。

独立回復・・1951＝38歳：
TV放送始・・1953＝40歳：第2回日本国際美術展に、
自衛隊発足・1954＝41歳：第1回現代日本美術展に出品し、
55年体制始・1955＝42歳：__第40回二科展では会員努力賞を受賞。
国連加盟・・1956＝43歳：__再び単身渡仏し、
なべ底不況・1957＝44歳：パリ市立近代美術館で{インターナショナル・ウーマン・アート展}などに出品したほかはあまり絵を描かず、イヴ・クラインやジャン・ジュネ、ジャン・コクトーと交友。

インスタランマン・1958＝45歳：知人のフランス人医師を訪ねようと、単身でアフリカ奥地を旅行。猛獣狩りなどを経験し、原始絵画に深い感銘を受ける。その後アメリカに渡り、ニューヨークに3年近く滞在、ルイズ・ニューヴェルソン、サム・フランシス、マーク・トビーらと知り合う。

安保闘争・・1960＝47歳：岡田謙三、草間彌生らとワシントンのグレース・ギャラリーでの{日本の抽象芸術展}、ニューヨークのリヴァーサイド美術館での{日米女流画家展}などに「作品」を出品。__シワをつけた和紙をコラージュした抽象表現主義的な作品を制作しはじめ、第六回国際美術展に「異邦人」を出品し、優秀賞を受賞。二科会退会。

タイタイ病始・1961＝48歳：父の死去の知らせを受けて帰国。__第6回日本国際美術展で優秀賞、同年以降は二科展に出品していない。
全国総合計画1962＝49歳：*「女ひとり原始部落に入る アフリカ・アメリカ体験記」を出版してベストセラーになり、
TV宇宙中継始1963＝50歳：__毎日出版文化賞を受賞。
この間、絵本の挿絵なども手掛け、動物をモチーフとした特徴的な作品を数多く制作する。

いざなぎ景気1966＝53歳：日本ガラス絵協会展に出品、以後9年毎回出品。__第7回現代美術展に「ゴンベとカラス」を出品し最優秀賞。
美濃部都知事1967＝54歳：オーストラリアとニュージーランドを旅行。
独特のユーモアを交えたコラージュの手法を駆使して、常に新鮮な様式を開拓し、個展や多くの美術館のグループ展に出品、初めは“ユキ子”、1970年代頃からは“ゆき”と称している。

石油ショック1973＝60歳：
角栄金脈辞任1974＝61歳：著書「狐の大旅行(正・続)」。渋谷のギャラリー・ワタリでデッサンとコラージュ展を、名古屋の伽藍洞ギャラリーで挿絵による個展を開く。

田中角栄逮捕1976＝63歳：この年開かれた{戦前の前衛展}図録の中で、戦前には、周囲からは「前衛的なしごとは男性だけのものだ」などといった批判を受け、日本画のような伝統的な領域で作品作りをするよう諭されたと、語っている。

革新大敗北・1979＝66歳：東京画廊で三回に分けて、戦前から新作までの個展を開く。
貿易摩擦問題1980＝67歳：__山口県立美術館で、戦前からの作品80点を展示した個展{桂ゆき展}が開催される。

中曽根内閣・1982＝69歳：
ジャコ機墜落1985＝72歳：横浜市民ギャラリーでの、第21回今日の作家展・インスレーションとは何かに紅絹の作品「弁慶さん」などを出品。東京INAXギャラリーの個展{紅絹のかたち}では、半立体の新作を発表。

昭和天皇没・1989＝76歳：{桂ゆき展}(東京画廊)を開く。1960年前後の渡米中の作品16点を出品。東京国立近代美術館での{昭和の美術展}に「作品」が出品される。

ドイツ統一・・1990＝77歳：銀座・ギャラリー上田での{60年代現代美術の断面展}に「物価」が、板橋区立美術館での{東京アヴァンギャルドの森}に「婦人の日」「鬼と花」が、名古屋市美術館での{日本のシュルレアリスム}に「手紙」「冠」が出品されるなか、__癌のため東京女子医大附属病院に入院し、

ソ連崩壊・・1991＝78歳：__急性心不全により没した。
下関市立美術館で回顧展{桂ゆき展}が開催され、2013年には生誕100年を記念して、東京都現代美術館と下関市立美術館で{生誕100年 桂ゆき ある寓話}が開催されている。小説家の桂英澄は弟。